

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570102362		
法人名	社会福祉法人 松涛会		
事業所名	グループホーム フロイデ彦島		
所在地	山口県下関市彦島西山町三丁目12番1号		
自己評価作成日	平成23年6月9日	評価結果市町受理日	平成23年11月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成23年7月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分らしく 穏やかに 生きがい」を歡喜(よろこび)に」という理念のもと、入居者一人ひとりが自分らしく生活できる場(パーソンセンタードケア)を提供出来るよう努めています。センター方式を活用し、個々での外出や活け花など、本人がしたい事を見極め支援出来るよう取り組んでいます。独自の生活援助計画(ケアプラン)で立案する際は、本人の希望と共に家族の希望を訊き、取り入れるようにしています。また、ケアプランに関係なく、1日1回はホーム外へ出掛けようとしています。さらには、天候に関係なく、そのまま館外へと出掛け、季節感等を味わっていただけるような環境作りをしています。また、地域保育園の園児と交流の機会があり、季節行事などで交流を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明るく広々とした環境のもと、利用者はゆったり、穏やかに過ごされています。法人や事業所の理念を大切にされ、職員全員で取り組む自己評価では、利用者一人ひとりの言葉や思いを尊重し、理念にそったケアができていないかを振り返り、共有されています。法人のバックアップにより、職員の研修体制が整っており、管理者、主任が細やかな現場指導をされて、働きながら学べるように職員を育てる取り組み青しておられます。情報を共有されるための書類の様式を工夫され、職員が利用者を見つめて得た状態や言葉などがポイントを押えて記録され、介護計画や日々のケアに活かされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についての勉強会を行ない、現在の事業所理念を職員皆で見直した。結果、意味等を職員皆で共有する事が出来た。また、意識して実践につながるように、朝の申し送り時に職員一人ひとりが理念カードを持参し、毎朝出勤職員一同で唱和している。	「自分らしく穏やかに生きがいを歓喜(よろこび)に」を理念としている。認知症を理解し、理念にこめられた思いを全職員で共有している。理念を共有スペースに掲示するとともに、理念カードを持ち、朝唱和してから業務を開始している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の花火大会に参加したり、マラソン大会の応援に行ったりと、地域行事には積極的に参加している。また、最近では、地域の保育園との交流を深めており、こちらから出向いたり、施設に招待している。施設行事(夏祭り等)も地域の方にお知らせしている。	海峡マラソンの応援や花火大会などの地域行事に積極的に参加している。地域の保育園2箇所とひな祭り交流会、運動会、焼き芋、カレーの会、七夕などで日常的に交流している。ボランティアによるおやつ作り、小中学生との交流、高校の職場体験の受け入れなどしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方によるボランティアと一緒にお菓子作りをしたり、地域の中学生の職場体験を受け入れている。その中で、実際に入居者の方とふれあってもらい、認知症の人について知ってもらう機会を設けている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を行う前に、全体会議の中で管理者より意義を説明している。その上で自己評価表を職員一人ひとりに配布し、記入してもらっている。それにより日々のケアを振り返ったり、改善点があれば見直し、サービス向上に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。評価項目にそって日常の業務を文章にし、全職員で検討することで認識が深まり、評価を通して、理念にそったケアができているかを振り返り職員間で共有している。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動状況や行事報告、行事予定、現在取り組んでいる事等を、写真や資料を使って報告している。また運営推進会議内で参加メンバーから出た意見やアドバイスを素に全体会議で話し合い、サービス向上に活かしている。	利用者代表、家族、地域包括支援センター職員、法人代表、職員(2名)のほか、地域代表として民生委員、婦人部長、消防団員の参加がある。年6回開催し、出された意見は毎月の全体会議で話し合い、災害時の地域の避難場所としての協力体制や、ボランティアの呼びかけなど運営に活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議メンバーの中に、地域包括の職員がおり、事業所の実情やサービスへの取り組みを報告している。また、運営推進会議の内容を、書面にて市へ報告している。市から来る調査依頼により、定期的に報告している。	介護保険課とは申請や事業所の実情を伝えての情報交換、相談をしている。地域包括支援センターの職員は運営推進会議に参加しており、事業所の取り組みについてのアドバイスや情報交換をしている。市の依頼で管理者が年5回認知症サポーター養成講座の講師を務めるなど、市との協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の排除マニュアルを常に事業所に設置し、職員がいつでも閲覧出来るようにしている。また、玄関の施錠は時間を決めて行っている(10時から16時まで開錠)。入居者のADLの状態によって、ベットの柵が必要と考えられる場合は、家族にその旨を説明し、同意を得て使用するようにしている。	身体拘束排除マニュアルがあり、全体研修会や個別の指導で、全職員が正しく理解して、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は時間を決めて行っているが、閉塞感なく過ごせるよう支援している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会や配布された資料を職員間で回覧し、周知するようにしている。また、心身ともに入居者の状態を日々観察し、変化があれば必ず記録に残すようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修などで学ぶ機会があり、個々の必要性に応じて、活用できるように支援している。また、実際に成年後見制度を活用している家族が居る。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が主に行っている。契約時には、内容について一つ一つ説明し、不安や疑問がないか尋ね、その場で理解・納得を図っている。また、改定等の際には、文章で知らせ、不明な点等については、電話にて説明をしたり面会時に直接説明するようにしている。管理者以外は、個人ファイルにある契約書を見て内容を把握するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・受付窓口を設置し(重要事項にも記載している)、その事を職員皆が周知している。各ユニット玄関に聞聞箱(ご意見箱)を設置し、自由に意見や要望を投函してもらえるようにしている。また、面会時にも近況報告の際、家族の要望等を聞く機会を設けている。運営推進会議内でも家族の代表に意見をもらい、運営に反映させている。	相談、苦情の受け付け体制、外部機関、第三者委員、処理手順を明示し、周知している。運営推進会議時、面会時、メール交換時などに意見、要望を聞いている。得られた意見等は運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりが意見や提案を思いついたときにすぐに表現出来るように、事務所に専用の用紙を設けている。それをユニット会議と全体会議で話合っている(管理者は参加している)。会議内での決定事項はすぐに実行している。会議内容を議事録として代表者へ提出している。	職員の意見箱の設置やユニット会議、全体会議で職員の意見を聞く機会があり、出された提案は拠点の直属の上司と話し合い、法人会議に提案を提出している。勤務体制、職員の応援体制、事業所独自の運営等に意見、提案が活かされている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況に合わせた条件で雇用している。また、チャレンジシート等を活用し、各自振り返りを行っている。代表者とも話しをする機会がある。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの経験に応じて研修を受けている。法人外の研修を受けた者は、その内容を他職員に発表する機会がある。法人内では新人研修など、必要に応じた研修を行っている。又、新人職員と指導者の間に意見交換する日誌が存在し、働きながらトレーニングを行う補足をしている。	法人研修を月1回、拠点研修を月1～2回実施している。外部研修は段階に応じて参加の機会を提供している。受講者は復命報告をし、法人全体で内容を共有している。新人研修は法人の研修のほか日々の目標、結果を記録して、ユニットリーダーの指導を受けるなど、働きながら学べるように取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や県内、市内の研修会に参加して交流を持っている。又、法人内のグループホームに勉強に行ったり、反対に実習を受け入れたりして、互いのサービスの向上に繋がっている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が発言する事に対して、しっかり受け止め、まずは本人の安心を優先するように関わっている。また、センター方式を使用し、本人の心身の状態把握をしている。本人が表現困難な場合は、家族やケアマネからの情報収集を参考にしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際に聴いた事を踏まえた上で不安や要望を受け止め、ホームでどのように過ごして欲しいかを聴くようにしている(ケアプランにも反映している)。また、遠方の家族にはメールにて近況報告を行うなどのサービスも行っている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族双方の意見を聞き、サービス導入時に必要としている支援を見極めている。また、要望に応じては、出来る限り対応している(朝刊配達・メールにて近況報告等)。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の視点での生活を職員が支援するという関係を築いている。職員の時間に合わせるのではなく、入居者の時間に合わせて暮らすようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や季節行事など、一緒に参加してもらえるように案内している。面会時には自室でゆっくり過ごしてもらえるように配慮している。ささいな事でも近況報告し、必ず家族の意向を尋ねるようにし、共に支えていると意識してもらうようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に出掛けたりしている。また知人の面会も受け入れている。その際、関係性が明確に分かるように、来所時、玄関にて面会簿の記入をお願いしている。	行きつけの美容院、長年のかかりつけ医である歯科の受診、馴染みのスーパーでの買い物などの支援をしている。家族の協力を得て自宅への外泊、墓参り、外食、外出の支援や娘さんへの定期的な電話、遠方の家族への近況報告など、馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握している。その上で気の合う方々で過ごしてもらったり、その場の雰囲気が入居者同士が自然と関われるような空間作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関係を継続しつつ、その先での生活が安定するように情報提供している。また、家族から相談を受ければ対応し、病院等で行われるカンファレンスに管理者が出席するなど、フォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1日1回のマンツーマンでの散歩時、ゆったりとした雰囲気の中から本人の想いを引き出すよう努めている。また、日々の記録に本人の行動や言動を記録し、把握するよう努めている。困難な場合も同様にセンター方式から導きだし本人本位で検討している。毎月のカンファレンスの中で検討している。	日々の観察をケアシートに記入し、ふれあい記録に本人の言葉を記録し、希望や意向を把握して、共有している。センター方式を活用し、担当者との職員と一緒にかわった心身の情報を集めて、本人の言葉を引き出す努力をして検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族、ケアマネから情報収集し、書面にて職員皆が把握できるようにしている。サービス利用開始後もそれが継続出来るように努めている。(お初めの提供や般若心経を読む等)		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間記入できるふれあい記録を使用している。ケアプランに添って一日を過ごしてもらっている。必要に応じて4色のペンで色分けして記入し、心身状態の変化や有する力を発揮した場面などの現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、本人、家族の意見を必ず尋ねるようにしている。近況報告にてその時の入居者の状況は伝えている。その意見を素に現状に即したケアプランを作成出来るように毎月の集計結果を出し、モニタリングし、カンファレンスを行っている。	本人や家族の思いや意向を聞き、気づきやアイデアを出し合って介護計画を作成し、毎月のユニット会議で評価、モニタリングをして、3ヶ月毎に計画を見直している。本人等の要望や変化に応じて、その都度現状にあった見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の様子を記入する用紙と、食事量・水分量・バイタルなどを記入する用紙が個別にあり、個々のファイルで綴じている。何時でも職員が見ることが出来、日々の情報を共有する事が出来ている。その中で介護計画について評価・記入し、その実践状況を見て、介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方の場合、クリーニングやコインランドリーを利用している。また、シーツ交換も職員が行っている。また、メールにて写真付きの近況報告も行なっている。外出支援等、様々なことにチャレンジしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員を通したボランティアと一緒にお菓子づくりをしたり、本人が必要とする日用品を、近くのスーパーへ買い物へいける様支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホーム主治医について説明・同意を得ている。月2回、ホーム主治医回診で本人の状態を報告している。何かあっても、メールや電話を利用して、主治医に報告・相談している。または、入居する前から通っていたかかりつけ医を受診している方も居る。	協力医療機関から月2回往診があり、常に連絡体制がとられ、適切な医療が受けられるよう支援している。入居前のかかりつけ医や歯科、眼科等を希望するときは家族が同行して受診し、相互に情報を交換している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回、訪問看護サービスを利用している。診て欲しい方の訪問看護記録を事前に事務所内デスクに提示しておく。また、緊急性が高いものに関しては、24時間連絡が可となっており、何時でも相談できるようになっている。また、メールでの経過報告や相談もしている。同施設内の看護師にも協力を依頼する事がある。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携している医療機関がある。利用者が入院した際、速やかに情報提供をしている。それにより安心して治療できるように配慮している。入院後も病院関係者と密に連絡を取り、本人の治療経過を把握し、退院後のホームでの過ごし方を考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合や終末期の対応について説明している。利用者に変化が生じた場合は、主治医に報告・相談し、薬の見直し等行なっている。またそのような兆しが見えたら、家族に相談し、話し合いの場を設け、今後どのようにサービスを提供していくのか話し合い、方針を共有している。	「重度化した場合における対応に係る指針」を備え、入居時に家族に説明し、重度化による看取りに関する以降確認をしている。希望があれば、ターミナルケアを行うことができることを含め方針を共有している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	一人ひとりの現状を把握し、そこから起こりうるリスクを想定し、事故防止に取り組んでいる。何か起きてしまったらヒヤリ・ハットやインシデント報告書などを記入し、原因をつきとめ再発防止策を職員皆で周知徹底している。各ユニットに応急手当のマニュアルを設置している。また、救急隊員による応急手当の講習も実施されている。	ヒヤリハット、事故報告書を整備し、本部事故対策委員会に報告して、検討、改善に努め、一人ひとりの再発防止、予防への取り組みをしている。年に1～2回救急隊員による救命講習、AED講習、緊急対応マニュアル(夜間対応も含む)を作成して、応急手当などの実践力を身につけるようにしている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署立会いのもと非難訓練を行っている。昼間想定と夜間想定の実施訓練を実施済み。訓練の様子を写真に残し、全職員で周知している。また、水害等の災害についても、講習会に参加している。	防災マニュアル、夜間火災マニュアル作成、年2回消防署指導下で夜間想定を含む避難訓練を実施し、避難場所の確認、消火器の使用訓練も実施している。自治会、消防団との協力体制について、運営推進会議で検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけや対応をするように努めている。皆同じではなく、その人にとって理解しやすい言葉で声をかけている。また、本人の名前を呼ぶときは、必ず本人の近くまで行って話しかけるように配慮している。必要時は筆談等の工夫もしている。	ふれあい記録に一人ひとりの言葉や状況を記録し、その人にあった声かけや対応をするようにしている。一人ひとりの力に合わせて、本人が1日を満足して終わられるように、人格の尊重をしている。法人の接遇研修(月1回)や職員同士の話し合いで、人格の尊重やプライバシーの確保を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何に対して相手(入居者)に決定してもらえようような働きかけをしている。また、本人が意思表示しやすいように質問の内容を考えて言葉かけしている。難聴の方に筆談をして、スムーズにやりとりが出来る。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランを実施するうえでも、本人に決定権を委ねている。自己決定が困難な方に対しては、職員がその日の状態をよく観察し、本人本位で判断するようにしている。入浴の順番等も、本人に尋ねるようにしている。本人が望むペースで過ごしてもらえるよう配慮している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所には鏡を設置し、その人らしい身だしなみが出来るように環境を整えている。外出時には口紅を塗るなど女性としてのおしゃれをしていただいている。洋服を選ぶ際も、本人の好みを優先し選んでいる。夏祭りでは浴衣を着て過ごしてもらっている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまで一連の動作を一緒に行っている。盛りつけでは、決まった皿を使用せず、メニューや実際の料理を見て、それに合う皿を入居者と一緒に選んでいる。また、肉が苦手な方には魚を提供したりと個人の好みに合わせている。食事に合わせたBGMもかけている。	三食とも配食であるが、一日一品は調理するように努めている。盛りつけや片付けは利用者と職員が一緒に行っている。利用者の嗜好をメニューに取り入れたり、ソフト食の提供、ワカメ、柿の差し入れや採れた野菜での一品料理など、食事を楽しむ支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によりバランスの取れた献立を考えている。水分は毎回計量している。不足しがちな方には、別の機会に多く補給してもらうなど配慮している。また主食も個人に合った量を測り、提供している。個人の身体状況に合わせて、ソフト食や刻み食の提供をしている。食事摂取量や水分摂取量は日々記録に残している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。個々の状態に合わせた用具(歯ブラシやハミグット)、洗口薬(歯磨きジェルやモンダミン等)を使用している。毎晩義歯は預り、消毒している。歯ブラシコップも毎晩熱湯で消毒し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを知り、トイレ内で排泄出来るように誘導・支援している。食事の前後や何か行動する前後など、流れにそってトイレへ行ってもらえるよう配慮している。また、「トイレに行きたい」という本人のサインを見逃さないようにしている。紙パンツも必要時以外は夜間も布パンツで対応中。	ケアシートを使い、利用者一人ひとりの排泄パターンや生活リズムを全職員が把握し、排泄のサインを見逃さないように配慮して誘導し、トイレでの排泄を支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員皆が便秘の原因や及ぼす影響を理解している。そのうえで、夜間に牛乳を飲んでもらったり、朝一番(起床時)に冷水を飲んでもらうなど、自然排便を促すよう努めている。また、入浴時に腹部マッサージをしたり、階段昇降など運動を取り入れている。個人では食物繊維を使用している方もいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望に添ってはいるが、現状では日中での入浴のみとなっている。2日に1回のペースで入浴しているが、本人の意向に添うようにしている。入浴の順番も一人ひとりに合わせて調整している。湯の温度や浸かる時間も、本人に負担が無い程度に希望通りに支援している。	本人の希望、意向を大切にし、ほぼ2日に1回のペースで入浴できる支援をしている。行事がある時の入浴時間の変更やゆず湯、しょうぶ湯など気分を変えての入浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに「静」と「動」のメリハリをつけるように支援している。入居者の表情・行動・言動を観察し、必要に応じて休息するよう促している。夜間も寝衣の素材や室温管理、照明の明るさに配慮し、安心して眠りにつけるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬管理ケースを設け、処方箋を表紙にし、一目で確認・理解できるようにしている。またそれを見て、用法・副作用・用量を理解している。服薬時は職員2名でダブルチェックを行ない誤薬防止に努めている。また提携薬局の薬剤師による管理指導を受けている。症状の変化は月2回の回診でホーム主治医に上申している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し、ケアシートを作成。本人の楽しいな事を知ったうえでケアプランを作成し組み込む事により、本人の活躍できる場面作りを行っている。書き物、生け花、縫い物等、それぞれの得意分野を見極め楽しみごと、気分転換の支援をしている。	パッチワークのランチョマット作り、家族のための編み物、中庭の花を摘んでの活け花、棘し子、洗濯物たたみ、掃除、週刊誌等の読書、ボランティアと干支の布人形作りなど、一人ひとりの得意なことや生活歴やできることを活かした場面づくりをして、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に関係なく、1日1回は戸外に出掛ける事を目標に支援している。初詣や保育園訪問など、家族や地域の人々の協力を得て外出する事が出来ている。また、ケアプランの中で職員とマンツーマンで外出するという支援をしている方もいる。その際は本人と職員で外出先を相談し、決定している。	花見(桜、バラ等)や催し物(コーラスの演奏会、フラダンス、ピアノ、法話、朗読の会)などへの外出や初詣などの他に、家族の協力を得ての外出や職員やボランティアと一緒に月1回は外出したり、中庭でティータイムを楽しむなど、戸外にでかけられるように、支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事の大切さを理解しているが、実際に普段お金を持っている方はわずかである。しかし、本人の安心の為に、家族の了解を得て、トラブルになっても支障のない金額を持っている方もいる。施設行事や外出時などには、一人ひとり財布を持ち、自由に使えるよう準備している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望で、家族や大切な人へ電話できるよう支援している。ケアプランの中に組み込み、定期的に電話をしている方もいる。又、手紙のやりとりをしている方もいる為、本人が安心して手紙をかけるような環境作りに配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節ごとに花が活けてったり、季節を象徴する飾りをして季節感を感じてもらえるよう工夫している。シーンにおいて、照明や音等に配慮し、メリハリをつけるように工夫している。	ガラス面を大きく取った2階の窓から、海や工業地帯、足元の林の緑を見ることができ、ゆったりと過ごすことができる。廊下、居間兼食堂は広々として明るく、ソファで寝転んでくつろぐこともできる。四季折々の飾り付けや利用者、職員、ボランティアが協力して作った作品も置くなど、季節感を取り入れ心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には、ソファや椅子、畳みを設置しており、利用者が思い思いの場所で過ごせるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人の使いなれた馴染みの物を持ってきてもらうように促している。また居室のドアを開けても中が見えないように暖簾を設置し、プライバシー保護への配慮も行っている。日々変化していく本人の状態に合わせて、家族と相談し、家具の入れ替え、より居心地よくすごしてもらえるような工夫をしている。	居室は好みにより畳を使用することもできる。テレビ、仏壇、タンス、ぬいぐるみ、雛人形など使い慣れた物や好みの物を活かして、本人が居心地よく、安全に過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用の空間にはブックラックを設け、読みたい時に自由に本を手にとれるようにしている。トイレへの表示も目につく所に明記し、自らトイレへ行けるような環境を整えている。一人ひとりに合った環境を整え、安全かつ安心な生活が送れるよう工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム フロイデ彦島

作成日：平成 23年 11月 17日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	自施設では訓練は出来ているが、地域との協力体制は検討中。	自治会、消防団との協力体制を築く。	・自治会長に運営推進会議のメンバーになっていただき、協力体制の実現に向けて検討を続ける。 ・施設側も地元の行事等に積極的に参加し、信頼関係を深めていく。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。